

旭ろうさい病院ニュース

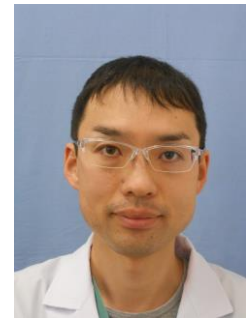
病院情報誌 第 181 号

令和 5 年 8 月 1 日発行

発行所：旭ろうさい病院
〒488-8585
尾張旭市平子町北61番地
TEL 0561-54-3131
FAX 0561-52-2426

肺がんのマルチ遺伝子検査によるドライバー遺伝子の検索

呼吸器内科主任部長 黒川 良太



肺がんの薬物療法は 2002 年に登場した EGFR 受容体チロシンキナーゼ阻害剤を皮切りに、がん組織のドライバー遺伝子変異を見つけ、その変異をピンポイントで阻害するという、新たな機序を持つ分子標的薬の登場で大きく進歩しました。近年は次世代シーケンス法などの遺伝子解析技術の進歩によって、個々のがんゲノムを解析し、その結果に基づいて有効な治療を選択する、がん個別化医療が確立されつつあります。肺がんにおいては、EGFR 変異に続き、ALK 融合遺伝子、ROS1 融合遺伝子、BRAF 変異、NTRK 融合遺伝子、MET ex14 skipping、RET 融合遺伝子、KRAS 変異を標的とする治療薬が承認され、更には HER2 変異や NRG1 融合遺伝子など様々な遺伝子異常を標的とする治療薬の開発が盛んに行われており、今後も肺がんにおける益々の個別化医療の進展が期待されております。

ドライバー遺伝子変異に対する分子標的薬が次々と開発されるに伴い、これらの薬剤を使用するために必要なコンパニオン診断も複雑化してきました。従来の一遺伝子解析を組み合わせる測定する方法では検体量の確保や治療導入の遅れ、検査費用の無駄などの多くの問題があり、ガイドラインでは可能な限り、これらを同時に測定できるマルチ遺伝子検査を行うことが推奨されております。肺がんのコンパニオン診断検査法として、次世代シーケンサーを用いたオンコマイン Dx[®] と肺がんコンパクトパネル Dx[®]、リアルタイム PCR 法により解析される Amoy Dx[®] の 3 つのマルチ遺伝子検査が承認されています。測定に含まれる遺伝子検査の種類も適宜、追加と承認が進められてきました。

当院もこれらのマルチ遺伝子検査を病理診断後、速やかに外注で依頼できる体制を整え、病理検査部との迅速な協議を経て、十分な検体量が確保された場合には積極的に実施しております。

やはり、それまでの単一遺伝子検査の組み合わせの結果を待っていた頃よりも、抗がん剤の決定に必要な情報が揃うまでの期間が短く、早期の抗がん剤導入が望ましい状況であった患者様のお力になれたと感じられることが幾度もありました。

がんの診療は診断、治療ともに日々進歩しております。我々も地域の皆様のお役に立てるよう、エビデンスやガイドラインに基づいた最良の診断および治療方法をできる限り、取り入れていきたいと考えております。

中央リハビリテーション部 肺炎サポートチームの取り組み

中央リハビリテーション部 理学療法士 藤代 国幸



当院、中央リハビリテーション部では、2014年よりPT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）で構成した肺炎サポートチームが活動しています。このチームは、誤嚥性肺炎の患者さんが退院となる際、ご家族や施設職員の皆様の不安解消を目的に退院前嚥下カンファレンスやケアに関する技術指導を行っています。また、近隣施設、病院に訪問し摂食、シーティング、排痰法の実技を中心とした研修会を行ってきました。

今回はこれまで行ってきた活動について紹介したいと思います。

各セラピストの役割について

◆PTの役割

PTでは誤嚥性肺炎の病態、身体機能を維持することの重要性、排痰方法について説明と技術指導を行います。誤嚥性肺炎の病態では、治癒後も再発を繰り返すこと、栄養障害から身体機能が低下し、不活発な生活となりベッド上で生活する時間が増え、さらなる身体機能の低下を来すことを説明します。身体機能を維持することの重要性では、関節可動域、筋力を維持することで起き上がり、車椅子移乗が自分で行える、もしくは少ない介助で車椅子移乗ができればベッドから離れた生活が容易となるため、その実技指導を行います。

排痰法では、痰は臥床していることで肺の背側に溜まるため、腹臥位、半腹臥位といった体位排痰法の行い方の技術指導を行います。

◆OT の役割

OT では誤嚥性肺炎を予防するため、できるだけ長くベッドから離れた生活を送って頂くことを目的に、車椅子への移乗介助方法や車椅子のシーティングについて技術指導を行います。

車椅子への移乗介助方法では、安全でできるだけ少ない介助量で行える方法や、体格の大きい方の移乗の仕方などの技術指導を行います。車椅子のシーティングでは、車椅子やクッションの選び方、褥瘡予防、関節拘縮のある方のシーティング方法の技術指導を行います。これらの技術指導を行うことで車椅子移乗回数が増え、長時間の車椅子座位を取ることができ、誤嚥性肺炎の予防につながります。

◆ST の役割

ST では安全な摂食を目的に、食形態の選択、摂取方法を指導します。さらに、喀痰力などの誤嚥防御力や、経口摂取でのエネルギー必要量が摂取できているかを評価します。また、当院で食物誤嚥無く摂取可能となっても施設や在宅で同じように継続できるとは限らないため、退院時には ST が主導し退院前嚥下カンファレンスを行っています。

退院前嚥下カンファレンスには PT、OT、ST、看護師、管理栄養士、ケアマネージャー、施設職員、患者家族等が参加し、情報を共有します。カンファレンスの内容は、PT、OT から ADL 状況と介助方法を説明し、病棟看護師は入院中の生活状況、医療の実施状況、食事摂取状況を伝えます。管理栄養士は必要栄養量や栄養を補う栄養補助食品の紹介をします。また、施設によっては調理師や栄養士が不在の場合があり、嚥下食の調理方法の説明や調理実習を行うこともあります。ST は看護師とともに実際の食事場面を見学してもらいながら、注意点について説明します。施設によっては同じ食形態を準備することが難しい場合、施設で準備できるものの中から近い食形態を選択し、不足している栄養を栄養補助食品で代替できるよう調整します。また、施設によって食形態は様々であるため、各施設が提供している嚥下食の調査を行い、当院で提供している嚥下食との調整を図っています。さらに要望があれば施設が嚥下食を変更する際、アドバイスを行います。

活動実績

肺炎サポートチームは 2014 年からこれまで、施設での研修会 24 件、退院前嚥下カンファレンス 431 件、施設向けアンケート調査 6 回、学会発表・講演 11 件を行ってきました。しかし、2020 年からはコロナの影響で施設での研修会は中止、退院前嚥下カンファレンスはオンラインでのやりとりへと変更となり件数も減少しました。現在、コロナは落ち着きつつあり、退院前嚥下カンファレンス件数も増えてきました。特に、退院前嚥下カンファレンスは施設やケアマネージャー、介護担当者からの要望が多く、「いろいろな質問ができてよかった。」「実際の食事場面を見ることで介護に活かせる。」など多くの声を頂いており、誤嚥性肺炎で入院したすべての患者さんに開催できるよう努力しています。

今後も誤嚥性肺炎の患者さんが安心して施設や自宅に戻れるよう活動していきたいと思っております。

市民公開講座のお知らせ

このたび、市民公開講座としまして「転倒予防」に関する動画を中央リハビリテーション部が作成致しました。

STOP!転倒

- | | |
|-----|----------------|
| 第1話 | 転倒の原因、転倒の及ぼす影響 |
| 第2話 | 転倒危険度のチェック |
| 第3話 | 転倒予防のための対策 その1 |
| 第4話 | 転倒予防のための対策 その2 |



全4話構成となっており、YouTubeにて動画を公開しております。
旭労災病院ホームページトップからアクセス下さい。

独立行政法人 労働者健康安全機構
旭ろうさい病院 Johas

トップページ プライバシーポリシー サイトマップ 文字サイズ 標準 大

交通・アクセスのご案内 受診予約・お問い合わせ TEL 0561-54-3131

当院ホームページから 下にスクロール

お知らせ TOPICS

すべて 患者さん向け 医療関係者向け **市民公開講座** 採用情報

2023年4月6日
現在第3話までである「STOP!転倒」の第4話ができました。
『STOP! 転倒』
第4話「転倒予防のための対策 その2」